

おどろき人

南洲吟道会創立二〇周年記念吟道大会

盛大に開催さる

中国胡弓・古箏と吟詠、琵琶と舞の共演

財団法人日本吟道学院総本部、日本コロニア倶楽部、クタクタ伝文化振興財団のご後援を得て、高橋修神・比沢道神両副総裁はじめ総本部役員外多数の来賓・吟友・地域社会の皆様をお迎えして平成六年九月二十五日(日)秋風の快い日、南洲吟道会創立二〇周年記念吟道大会が盛大に開催された。練馬文化センターホールは、早朝からお客様のご案内するかのよう。受付ロビーから会場へと、お客様を案内するかのよう。吉永小百合・米長邦雄永世棋聖(前名人)・コロニア・ピクチャーを始め、当会の各会・教場から二〇に及ぶ生花がズラリと並び二〇年の歴史の重さを感じる。当日は、ご来賓を始め広範な地域から一般のお客様が、ごくごくと来場され午前中に早くも満席となり、立見のお客様も出る盛況ぶりであった。在籍二〇年の会員から入会間もない新会員まで、吉永龍洲会長、龍陽副会長ご指導のもとに、「敬天愛人」一吟道報恩」を二本の柱として精進を重ね、その発表の場を迎えたのである。

南洲吟道会報

定刻に開会され、十二名の物故会員一人ひとりの芳名が読み上げられ、それぞれの想いを胸に心から黙祷を捧げる。国歌、吟道精神の斉唱に続き会詩でもある西郷南洲翁ご遺訓「敬天愛人」の大合唱でいよいよ開幕。会員吟詠は、「国土を讃えて」「中国(詩)を訪ねて」「日本(人)の心」の四つに分けて、その何れかに全会員が独吟・合吟・構成吟として出演し、それぞれ創意工夫されたものであった。会員増加と共に、レパートリーも多岐に亘り、舞、書、画、ハートモ二カ、朗読の名手が勢揃いして舞台上に立体感と活力を与えてくれた。特に当会のスター日本コロムビア専属吉永典子さんの「湖衣姫哀歌」は、張りのある若々しい声と、熟練された坂東日出葵先生の日舞が一体となり観客を魅了した。又小学生吟士が力強い吟声で満場の声援にこたえ、とても頼もしく思えた。更に大会を盛り上げて下さったのは、招待吟詠の諸先生方による心に響く吟と、賛助吟詠七団体一四名の皆様の熱吟であった。まことに有難うございました。

第二部記念番組は、男子四八名による書道吟。陶淵明の「雑詩」朗読に続き「勸学」が吟じられ加藤彩泉先生の力強い隸書が見ごたえのある舞台にした。これに對し女子チーム七五名による華道吟。照明に映えて並ぶ姿は、ンクに輝き山台一線と舞台一杯に弧を描いて並ぶ姿は、何とも優雅で美しい。中央の緋毛氈の上では、草月流の増田江林先生(龍陽副会長)の令妹、外二師範が、思い思いに活けて行く華の美しさ。声・形・色彩のハートモ二カが織り成す芸術の妙味である。

会沢道神副総裁・森豪神常務理事・岩坪博秀顧問の感激のご祝辞に続いて龍洲会長に感謝状が贈られ、総本部の表彰が行なわれる。続いて当会の六六名に及ぶ功労者紅女史の神業のような胡弓の調べ、中国最高峰の奏者劉継つたように静まり返った場内に流れ、アンコールにこたえて「荒城の月」の音色は大きな感動の嵐を呼んだ。優勝記念「惜別の歌」は、龍陽吟道大会構成吟コンクール選抜チームの出番だ。ハイカラさんスタイルのナレタ代に青春の香りを伝え、吟者達は和服姿も艶やかにさながら恋知り初めし乙女のように、中友好親善を記念して白樂天の「長恨歌」に題材を求めた構成吟「玄宗と楊貴妃」。池の水のきらめきを映し出すと、千百年前の玄宗作曲に

会報 第一一 号

発行所 南洲吟道会 廣報局
 編集人 吉永龍洲
 発行人 中野区白鷺二ノ三四ノ五
 平成六年二月一日
 南洲吟道会 廣報局
 会長 吉永龍洲
 (社) 日本吟道学院南洲吟道会
 〒一六五 中野区白鷺二ノ三四ノ五
 〇三(三三三〇)七〇〇九



なる霓裳羽衣の古曲が、中国胡弓の名手劉継紅女史と余江荔女史の古箏に、よって奏でられ、観客はいつしか唐王朝の幻想の世界へと誘われて行ったのである。ナレと薄幸に散った楊貴妃との幻想的な悲恋物語を次々と実に見事に表現した。安禄山の乱に巻き込まれ捕われの身となつた杜甫の作「春望」を、特別出演不動心流劍舞道宗家谷津鐵州先生の氣迫に満ちた劍舞に相応しい熱吟で決めるといよいよ両先生の登場である。胡弓伴奏に乗って会長の和歌朗詠が始まると、楊貴妃の行方を訪ねて特別出演の三藤祥素女、三藤祥鈴両先生の京劇のような舞が華を添える。常世の国の王妃太真が身の上話をする場面は謡曲「楊貴妃」の一節を吉永龍陽副会長が、ご自身藤原先生の舞が観衆の胸に迫る。フィナーレは、総勢五四名の大合唱で長恨歌最後の名句を吟じれば胡弓・古箏が降りると一瞬の静寂の後、割れんばかりの拍手が鳴り響いた。

プログラムの最後第一八部は、会長副会長の息の合った曾我兄弟と日舞の素踊りで見事に締めくくられ、本大会は、大成功に終わった。「こんなに素晴らしい舞台は滅多に観られない」等感動の声が聞かれ、最後まで満席のお客様が飽きずに見て下さったのは、全会員が何れかに出演した四つの記念番組の成功にあると思われ。南洲吟道会栄光二〇年の歩み(全国大会等各種大会で優勝一五・準優勝十一・第三位六・入賞六・推薦吟詠者一五名)がプログラムの飾り、良き師、良き同志に恵まれて吟道に精進出来る私共は、無上の幸せ者である。本大会の叫進は精進出来る私共は、無上の幸せ者である。本大会の感激、余韻嫋々として今なお余りあり。二五周年に向け更なる発展を期し、感謝の気持ち一杯にパーティー会場を後にした。

後日譚

先日ある新聞紙上で、日本から華清池に桜の苗木が贈られ植樹されたとの記事を読んだ。二〇周年大会にて「長恨歌」を上演したばかりだったので大変驚いた。白樂天という人は、詩人の傍ら皇帝の秘書役更に皇帝に意見具申等もする役職に就き、仕事にも情熱を燃やしていたと聞く。特に詩は、政治の歪みを正して民衆の苦しみを救うに役立つものでなければならぬと考える白居易の精神が人々に歓迎され、遠く日本人の心まで影響を与えたのかも知れない。

二〇周年大会の御礼と御詫び



会長 吉永龍洲

全会員の皆様の総力の結集により、本会創立二〇周年記念大会は、大成功の裡に終了しました。ご苦労さまでした。これは一重に龍陽副会長と実行委員の昼夜兼行の努力と、大会役員の皆様の心を一つに頑張ったお陰であり、誠に有難うございました。又各会・各教場から立派な御生花を沢山に供えて下さり、御礼申し上げます。このお礼の会長が、「賛助吟詠、招待吟詠が少なからず、これでお礼の会長が、「賛助吟詠、招待吟詠が少なからず、光され、その危惧をよそに早朝よりぞくとお客様が来て予想外の嬉しい悲鳴でした。そして飽きずにお開きまでお客様が観て下さったことは、大変な感激でした。更にお客様の皆様に感謝、そのお客様方の評、とに、お客様が最後まで帰らなかったのは、スバラシイ内容だから。

・有料で開催すればよかったですね。

・次から次へと、今度は何が出てくるか楽しみです、目が離せず席をはずすのが勿体なかった。

胡弓、日舞、劍舞がスバラシかった。バックの紗幕、胡弓の生伴奏、ナレーションと相俟って「玄宗と楊貴妃」は圧巻だった。この成功の影には、企画構成からBGMの多数のテプの編集に至る迄、小泉泰祥広報部長の絶大な尽力がありました。

おめでとうございます

またもコンクール優勝!



☆ 関東甲信地区推薦吟決選会第一位

☆ 浜口昭城(龍陽会)「孟浩然が広陵に之くを送る」 秋季全国大会(札幌) 推薦吟者として表彰さる

☆ 秋季全国大会(札幌) 合吟コンクール優勝

☆ 吉永龍洲・西本秀龍・佐藤勝祥 荒井鳳祥・長友天吟「偶感」

同点の札幌吟道会(女子)に譲つて銀賞受賞 南洲吟道会から産まれた札幌吟道会ですので、これも亦よきかな

平成六年度秋季全国大会・本会 各演目で大活躍!

於 札幌 十月二日

☆ 独吟 「峨眉山月歌」 今野瑤祥

☆ 合吟 「武蔵野を讀う」

吉永龍洲・吉永龍陽・西本秀龍・橋本禱龍 中村薫祥・佐藤勝祥・荒井鳳祥・今野瑤祥 浜口昭城・長友天吟・平松玉吟・永田敦子 山内泉洲(舞)

一日(土)は、小樽方面を観光し夜は、すすきの散策の後全日空ホテル泊、大会終了後は洞爺湖ホテルに泊、三日目は白老のアイヌ部落等を見学。とにかく素晴らしい天候と、ホテルに恵まれ、札幌吟道会の鈴木玉龍先生ご夫婦の暖かい歓待を受けて、大変愉しくかつ有意義な三日間でした。

創立二〇周年に想う



池尻教場 野口勇城

南洲吟道会二〇周年の記念すべき年を迎え、共に祝うことが出来たことは誠に無上の慶びであると同時に、これまでの歴史と伝統の重みと、これらを継承発展させることの重さを改めて噛み締めるしだいです。昭和四年九月に用賀駐屯地に産声をあげ、幾多の変遷を経て今日があり、会長、副会長はもとより大淵先生のご苦労が偲ばれます。なんと申ししても南洲吟道会を語るには、まず吉永龍洲先生そして大淵先生を忘れることはできません。思えば会長が昭和四八年春、用賀衛生補給処に警務隊長として着任し、駐屯地の創立記念日に吟を紹介されたのがきっかけで、その時始めて詩吟の良さを知り、すばらしさをしりました。駐屯地内で朝な夕なに教えをうけたのもこの時が始まりました。そして昭和五〇年に会長は、市ヶ谷(東部方面総監部)に御転となり、土曜日の午後用賀まで教えに見えていました。昭和五四年現役を退く年の九月大淵先生が池尻に教室を開設しました。会の設立にあたり会長は鹿兒島県出身であり、西郷先生を敬愛し敬天愛人を旗印にと、南洲を借りて「南洲吟道会」と命名しました。試験での失敗、各種の大きなホールに出演出来たこと、間沢山の思い出ができた各旅行に参加出来たこと、二〇年の南洲吟道会は不滅です。

同志増加の一途

新入会員紹介

前号でお知らせした後、新たに次の方々が入会されました。どうぞよろしくお願ひします。

- 八木さよ (瑤洋) 六年 八月 五日付
石田一江 (習志野) 六年 九月 一日付
中里須磨 (習志野) 六年 九月 一日付
田添和江 (山びこ) 六年 九月 一日付
広瀬美代 (習志野) 六年 九月 一日付
平松 茂 (いずみ会) 六年 十月 八日付
菊池裕子 (いずみ会) 六年 十月 八日付
大池年裕 (拓大) 五年 六月 八日付
山本朋弘 (拓大) 五年 六月 八日付
作山 徹 (拓大) 六年 四月 一日付
狩野とし (西船橋) 六年 十月 二日付
本田晃龍 (三菱) 六年 十月 二日付
木代ゆかり (中町会) 六年 十一月 一日付
茂呂藤子 (椎名町) 六年 十一月 八日付
北 恒子 (中町会) 六年 十一月 二四日付
横田六郎 (習志野) 六年 十二月 一日付

平成六年度秋季昇段審査会

於 鷲宮地域センター 十一月 六日(日)

Table with columns for age groups (少年の部, 一般の部) and ranks (初段, 二段, etc.), listing names and counts.

指導局

